

## 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
<b>合計</b>	<b>100</b>

### 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さくら荘 2階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市坂之上38番56号
記入者名 (管理者)	池満 由紀子
記入日	平成 21年 4月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い理念の理解を深めている。 地域住民の一人として生活することを支えるケアを実践することを目標に、理念を設定している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時、日々の申し送り時、社内定例会等機会を捉え意識付けを行なっている。 ホーム玄関に手書きの運営理念を掲示している。 理念の見直しを全員で検討したが、結論がでなかった。		昨年度完了しなかった理念の見直しを、スタッフ全員で検討を進めて結論をだす。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	石塚町内会総会、青壮年部総会、老人クラブ(むつみ会)総会に運営者、管理者が参加し[地域密着型サービスのグループホームの役割]と[認知症とは]のテーマで話をする機会を頂いた。 施設見学や、入居申し込み時、契約時、家族会等機会を捉え家族や地域の人に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	火災や地震等緊急時に、近所の人に協力してもらえるように、近所付き合いを積極的にしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	石塚町内会行事(夏祭、公園清掃、夏季冬季の夜回り等)に積極的に参加している。 敬老の日のお祝いに、利用者も含め参加した。 谷山夏祭りにグループホームの一員として参加。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>石塚町内会、青壮年部会、むつみ会、婦人部会等機会を捉えて地域密着型サービスの意義と認知症への理解を深めている。認知症、高齢者介護の相談窓口のPRに努めている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で行い、サービスの向上に役立てている。外部評価の結果は、定例会で報告し、改善に向けて具体案の検討やチームケアの実践に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>委員に評価の取り組み状況や課題について報告を行い、そこでの意見を活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>鹿児島市担当窓口に、法令違反がないよう相談し、指導をうけている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業のパンフレットを、鹿児島市地域福祉課より取り寄せ勉強会を開いた。成年後見人制度についても、勉強会で取り上げ理解を深めた。尚成年後見人が選任された入居者が、現在1名おられる。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法について社内研修を実施した。肉体的虐待防止や言葉による精神的虐待防止について定例会等、意識の啓発を実施している。又家族の心情を考慮し家族会やアンケートを実施し実態の把握に努力している。身体拘束についても、マニュアルを作成の上、入居契約時説明し適正な運用体制が取れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居手続きチェック表に基づき、運営規定、契約書、重要事項説明書や事故防止委員会等の設置状況、又医療連携体制等同意を必要とするもの等、運営者と管理者が、詳しく説明している。</p> <p>退去の条件や利用料等トラブルが予測される事項は、特に時間を掛け理解を得て契約をしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が、年1回訪問し、利用者の相談にのって頂いている。意見箱を設置している。</p> <p>契約時に相談苦情受け付けの対処について、委員会や外部の相談窓口等説明している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回発行のさくら荘便りや、家族宛の筆箋や写真を送り、利用者の暮らしぶりや、健康状態をお知らせしている。</p> <p>小遣い帳は、来所の折の確認や、3ヶ月毎の写し送付で、金銭管理状況を報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居契約時に、相談苦情体制の説明や、玄関の掲示等で家族の理解を得ている。</p> <p>運営推進会議、家族会等で、ご意見を聞き、相談苦情処理委員会、定例会等で解決策を検討し、家族への回答と共に、運営に生かしている。</p> <p>訪問された折管理者、計画作成担当者、スタッフとの面談をお願いしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営推進会議、事故防止委員会、身体拘束廃止推進委員会、相談苦情等処理委員会や、ケア会議、定例会、飲み会等で、職員の意見や提案を求め、反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の通院、入退院や看取り等、職員の有給休暇取得等、柔軟な各対応に向けた勤務調整が、職員の協力により、出来ている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員は固定化し、馴染みの職員によるケアを行っている。</p> <p>ユニット間の異動は、原因と効果を皆で話し合い、又家族の意見も必要に応じお聞きし、介護レベルを落とさないよう実施している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	自己啓発の必要性を説き、スキルアップを図っている。 社内研修は、採用時の研修、社内定例会、ケア会議、自己評価、各委員会への参加等又外部研修は、GH勉強会、各団体の研修会に積極的に参加しOJTを進めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	17年末谷山地区のGHで勉強会を立上げ、現在約20業者の職員50名～80名が、月1回開催の勉強会に自主的に参加している。 谷山夏祭りに、GH勉強会のメンバーで踊り連を結成し、地域の行事にも参加し、市民へのGHのアピールとネットワーク作りに活かしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	問題を一人で抱え込まず、チームケアに徹する事の意識付けを行っている。 飲み会やカラオケ等親睦の機会を設け職員の連帯感の、醸成に努めている。 有給休暇の積極的な取得、ノー残業の推進等働きやすい職場作りに努力している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己啓発の必要性を説き、スキルアップを図っている。 資格取得の目標を協議し、挑戦している。20年度は3名介護福祉士に合格した。 適正な給与体系と人事評価で処遇し、中小企業退職金制度への加入等労働意欲を高めるように努力している。		介護福祉士免許の、スタッフ5割以上取得
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にさくら荘に足を運んで貰い、本人の意思や家族の思いを良くお聞きし、適切なアドバイスを心掛けている。又体験入所も活かし、本人の気持ちを大切にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めている事を理解し、さくら荘としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。 これまでの家族の苦労やサービスの利用状況、経緯等ゆっくりにお聞きすることで落ち着いて貰い、次の段階の相談に繋げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前にさくら荘に足を運んで貰い、本人の意思や家族の思い、状況を確認し、適切な入所の提案や必要に応じ他のサービス機関の紹介をしている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの初期情報をスタッフが共有し、他の利用者にも声かけしたり、本人が馴染めるまで家族や関係者に頻繁に来てもらい、安心感を持つて貰うようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びを知ることにより、暮らしの中で分かち合い、共に支える関係作りに留意している。支援する側、支援される側という意識を持たず、両者が協働しながら穏かな生活が送れるように、声かけや場面作りをしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>介護を実践するスタッフは、常日頃家族を支援される一方の立場におかず、情報や喜怒哀楽を共有し、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人、家族の思いや状況を見極め、外泊や外出で家族と過ごすことを勧めたり、さくら荘行事への参加を呼び掛けたり、また月1回の筆箋やさくら荘便りで様子をお知らせし、本人と家族のより良い関係の維持に支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人の来訪は、限られた利用者に稀にある。関係が途切れないよう話題にしたりして、支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士のトラブルが多く、困難さを痛感しているが、利用者同士の関わり合いをそれとなく見守つたり、個別お話を聞いたり、日々の食事やお茶の時に、職員も一緒に多くの会話を持ったりし、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役になり支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため退所された利用者を、管理者や運営者が定期的に訪問し、遠方の家族に代わり、お見舞いや入院費の立替等、利用者や家族支援をしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や表情等から推量ったり、又それとなく確認し、本人の希望や意向の把握に、努めている。 ご家族来訪時に、家族と面談し、本人や家族の希望や意向の把握に、努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や契約時、入居後のご家族来訪時に、本人やご家族よりの聞き取りをしている、又医師よりの情報、過去の認定情報やフェースシートを活用し、過去の暮らしぶりを把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、できること、わかる力を言動から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の希望をお聞きし、又日々の介護記録を分析し、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎のケース担当者会議で検討し、ケアプランを作成している。 見直し以前に対応できない変化が生じた時は、本人や家族の希望、介護スタッフの意見を活かし、現状に合ったプランに修正している。 ケアプラン見直し時は、スタッフ全員でアセスメントを行い、プランの修正をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録(食事、水分、排泄等身体的状況)や、ケース記録(暮らしの様子、本人の言葉や行動、職員の気づき、利用者の状態変化)を個別に記録し、情報を職員が共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。 過去には、本人や家族の要望により、終末期の利用者を入院させることなく看取った。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には、運営推進会議の参加や、入居相談の為の来所等協力を頂いている。 ボランティアによるエイサー踊りや演奏会等協力を頂いている。 消火訓練、避難訓練等南消防署の協力を頂いている。 中学生の、体験学習の受け入れをしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況や希望の応じ、ボランティアの見守り支援を利用できるようにしている。 本人の希望や体調に応じ、訪問理美容サービスを利用して貰っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター谷山に、運営推進会議に参加して貰い権利擁護等指導を受けた。		高齢者福祉センター谷山との連携を検討したい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医か、従来の主治医か、本人及び家族と協議し決めている。又複数の医療機関と協力関係が出来ている。 ご家族と協力し、入退院や通院介助を行なっている。		



鹿児島県 グループホームさくら荘2階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい心療内科医を、協力医療機関としてお願いし、受診や適切な指示や助言をして貰っている。		利用者一人ひとりの認知症の病状を具体的に説明し、指示や助言を生かした介護を強化する。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	準看護師の有資格者を、計画作成担当者として配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援体制を執っている。又緊急時の連絡体制も機能している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は生活記録等持参し、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。 入院期間中は、職員が頻りに訪問し本人、家族への支援を行ない、速やかな退院に結び付けている。 入退院時は、家族と情報を共有し、支援を行なっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアに対する指針に沿い、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行なった。又状態の変化があるごとに、話し合いを行い、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、看取った。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師、グループホームの3者が、無理なく対応できる事を判断基準とし取り組んだ、協力医と共にチームでの支援ができた。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージが、最小限となるよう、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について、情報提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>朝礼、定例会等の折、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方を管理者が点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。特に言葉使いに注意している。全ての職員が個人情報保護法の理解に務め、秘密保持の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員が決めて押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案し、一人ひとりの利用者が、自分で決める場面を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調と、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、買い物や散歩等、個々の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着替えについては、本人の意向で決めて貰い、職員は見守りや支援が必要な時手伝う。自己決定がしにくい利用者には一緒に声掛けして支援している。本人の望む店がある時は、連携を取っている。歩行不安等外出が困難な入居者には、訪問理容・美容を利用して貰っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は、なるべく利用者の希望を取り入れるように、工夫している。野菜切り、盛り付け、配膳、下膳等利用者と共に行い、利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう務めている。季節を感じるツワの皮むき、竹の子の下ごしらえと一緒に食事の準備をしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在喫煙される方はいないが、以前は利用者と相談の上、職員が煙草を預かり、喫煙する時は、他の利用者の迷惑にならないよう換気扇の下で喫煙して貰っていた。</p>	<p>体調管理の為、居室で摂られるおやつ等の摂取量、賞味期限等の管理支援を行なう。 月1回のわがままデーを決め、好きな物を食べ楽しめるように支援したい。</p>

鹿児島県 グループホームさくら荘2階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促している。 歩行困難な利用者には、居室で尿器、ポータブルトイレを使って貰っている。 失禁時は、本人のプライドを傷つけないように、他の入居者に気付かれないよう配慮し支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら、一人ひとりのその日の体調や、ペースに配慮し、入浴の順番、時間、回数を決め、ゆっくり入浴できるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう務めている。又一人ひとりの体調や表情や希望に沿い安眠や休息の支援をしている。 薬剤服用時は、医師と相談し服用して貰っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの、今したい事やできる事を尊重し、体調に配慮しつつ食事作りや園芸、洗濯物たたみ、掃除、塗り絵、生花、トランプ、外食等楽しい時間を持てるよう支援している。		対応できる利用者には、入浴準備や居室のモップ拭きを協力して貰う。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、小遣いを事業所が預かり管理している。 職員と一緒に買い物に行き、お金がある安心感や満足感を持って貰えるよう配慮している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、日々の散歩や弁当持参の花見、ソーマン流しの外食等で、季節の移り変わりを肌で感じてもらう。		団体での外出だけでなく、一人ひとりの希望の外出の機会を持ちたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	鹿児島国際大学の森の音楽会、水族館見学等予め計画を立て、事故のないよう支援している。又必要に応じ家族の参加を呼び掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい方には、事務所の電話を利用して貰い、又最初は職員が対応する等支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、いつでも好きなだけ居室で歓談して頂いている。 気持ち良い挨拶に心がけ、気軽に来やすい雰囲気作り而努力している。 お帰りの際、利用者の状況をお聞きし、介護に生かしている。		さくら荘便りや電話で、家族会や運動会等行事への参加の呼びかけを強化する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会で、マニュアルの周知徹底を図り [禁止の対象となる具体的な行為] を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 入居契約時家族に対し、身体拘束に関する、さくら荘の取り組み体制を説明し、理解を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの外出のくせや生活のパターンを把握し、職員間で作業位置を確認連携の上、日中は玄関の施錠をせず、自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行ない、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、2時間ごとに巡視し利用者の様子を確認すると共に、音に気をつけ、起きられたらすぐに対応している。夜勤者は、体調不良等の利用者について特に念入りな申し送りを受け、対処の万全を期している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は事務室で管理保管し、洗剤は、目や手に届かない対処をしている。 居室の注意が必要な物品は、利用者との協議し個別に対処している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会での事故分析と対策の実施、介護マニュアルの整備と研修、緊急連絡網の整備、応急手当ての研修、消火・避難訓練等、多岐に亘る事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	南消防署の応急処置の研修に参加し、後日マニュアルを利用し、職場内定例会で、全職員の学習を実施している。		未受講者を把握し、研修計画を立て、全職員の受講を達成する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	南消防署の協力を得て、年2回、消火・非難訓練を利用者も参加し実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護事故やヒヤリハットの分析を行い、個々の危険予知を行っている。 車椅子の利用等対策については、医師や家族の意見を聞き、対処している。 家族会や運営推進会議で、介護事故分析結果を報告し理解を深めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤者からの睡眠や心身の状況の申し送りを元に、入浴時や体調が悪い時、バイタルチェックを行い顔色、気分について観察している。 異常時はその程度により様子観察又は主治医に連絡し指示により対応している。必要時は家族に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、用法、用量を把握し与薬確認を行い、生活記録表に記録している。 副作用については、下剤、睡眠等についてその都度変化の確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防は、利用者への聞き取りや便器の確認で行なっている。 高齢で運動が出来ない方や少ない方は、医師と連携し下剤の服用をしている。繊維質の多い食材や水分補給、散歩、家事活動等身体を動かす機会を設け、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、力に応じた口腔ケアを行い肺炎予防の努めている。 生活習慣として、食後の歯磨きの声かけや、義歯洗浄、嗽等、力に応じた支援をしている。		口腔ケアの取り組みを、勉強会のテーマとして取り上げ、口腔ケアの徹底を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、体調に配慮し量は加減し、肉、魚、野菜をバランス良く取り入れ、又献立は、利用者の希望や目先を変えた、あきない献立に務めている。 水分量は、1日1,000ml摂取を目標に声かけをし、又日々の記録を行い、排便コントロールをしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防や対応をしている。 インフルエンザの予防接種を、利用者と職員が受けている。 浴槽水の、年1回の検査と、日々の塩素消毒の実施と入浴時は塩素濃度の測定、チェック、記録をしている。 時期を判断し、排泄後や食前の手洗い等、消毒したタオルで手拭をして貰っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、洗浄や、乾燥により又フキン等は塩素剤消毒を行ない衛生管理に務めている。感染症の多発時期は、煮沸消毒を行っている。 野菜類は、市場で仕入、新鮮な野菜を使用している。 食材の在庫状況や加工食品の賞味期限を常に点検している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	象徴的な桜や広い芝生の庭、手入れのゆきとどいた花壇等利用者や家族、近隣の人等に好まれる環境になっている。 駐車場から、階段、玄関まで、利用者の安全な住環境に、配慮した工夫をしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は、音に敏感に反応される。ドアの開閉音や物の倒れる音、職員の大声や笑い声等気を付けている。 季節感を感じる花や利用者手作りのカレンダー、飾り物を利用し、又カーテンや照明も吟味し、家庭的な雰囲気作りに役立っている。 毎朝の掃除を、利用者も参加し、快適な住環境の維持に努力している。 利用者の、作品コーナーも設けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファやフロアのソファ、リビングテーブル等各人好みの場所を確保されている。ソファの位置も季節や利用者の希望に応じて変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの小物や季節毎の切花、本人手作りのカレンダーや誕生日メッセージ、季節の工作物、家族の写真等を使い、その人らしい居室作りに工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気は常に行い、天気の良い日は、居室、フロアー共開窓し換気と季節の風を感じて頂いている。 温度調節は、利用者の希望や体調に気をつけ、こまめにコントロールしている。トイレは、1日に2回掃除し、又換気扇で悪臭が出ないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計の段階で、建物内のバリアフリー化や、車椅子対応のトイレや浴室、廊下やトイレ、浴室等の手すりの設置等、安全な住環境作りに配慮した		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入り口に、目線の位置で名札や写真を掲示している。 3ヶ所の共用トイレを、一人ひとりほぼ決まった箇所のトイレを利用している。 食事のテーブルの位置も、一人ひとり決め食事を摂っている。		ポータブルトイレを設置し使用している利用者が5名おられるが、起床時、日中、就寝前は、トイレの使用を勧める。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭と芝布を活かし、運動会やゲートボール、演奏会、日々の散歩等、楽しんで貰っている。 花壇や菜園、果樹を利用し、観賞や収穫の喜びと季節を感じて貰っている。 庭やベランダ、ポーチにベンチを置き、一人ひとりが自由な時間を過ごす場所として利用している。		車椅子、歩行器を利用されている利用者に、庭を眺めているだけでなく、庭に積極的に下りてもらうよう務める。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない



鹿児島県 グループホームさくら荘2階

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の体操を継続することで、体の動く人も、車椅子の人も、認知症の重い人も全員参加で石塚町内会夏祭りに参加した。このことが一人ひとりの自信に繋がった。今年も参加に向けて「ゆいゆい体操」を練習しています。  
 さくら荘の広い芝布の庭は、運動場、散歩道、ベンチでお茶タイムと色々な用途があり、気分転換や運動不足の改善に役立っています。又菜園や花壇の草花は情緒面に寄与しリビングルームにはいつも利用者が摘んだ花が絶えることはありません。自由に庭に出られることが、利用者にとってどれだけ癒しになっているか計り知れません。  
 介護の質のレベルアップの為、自己啓発の必要性をスタッフが自覚し、朝礼や定例会議等OJTの推進又社外研修への参加、資格取得等積極的に挑戦しています。